

聖ドメニコ・サビオと聖マリア・マザレロ

2020年5月28日(木)

校長 田沢 幸夫

サレジオ会やサレジアン・シスターズ(扶助者聖母会)は、ドン・ボスコが創立した修道会で、「サレジアン・ファミリー」です。もうすぐ5月が終わりますが、聖母月の5月に記念日があるサレジアン・ファミリーの聖人を紹介します。

5月6日は、聖ドメニコ・サビオの記念日です。ドメニコ・サビオは12歳のとき、トリノのドンボスコの学校に入りました。彼は模範的な生徒で、自分のことだけでなく、友達のことにも心配していました。

あるとき、二人の友達がけんかをしたあともまだ気分が収まらず、別な場所で石投げで勝負を決めようとなりました。そのときドメニコは、二人の真中に立ちはだかりました。「じゃまだ、ドメニコ、どけ」と言う友達に対して、「ぼくはどかない。さあ石を投げなさい。」と毅然とした態度で彼は答えたのです。二人はドメニコの態度に負けて、石投げの勝負を取りやめました。この時は二人は不服でしたが、あとでけんかをとめてくれたことを彼に感謝しています。

ドメニコ・サビオは、14歳で病気で亡くなりましたが、彼の生き方は、多くの人の模範になっています。私たちも彼にならい、自分と友達の善のために勇気をもって行動したいものです。

5月13日は、聖マリア・マザレロの記念日です。マリア・マザレロは、ドン・ボスコと共に扶助者聖母会(サレジアン・シスターズ)という女子修道会を創立しました。

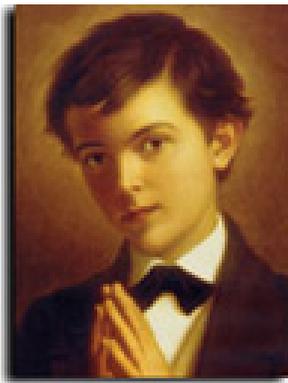
彼女は1837年、北イタリアのモルネーゼという村で生まれました。家は農家で、十人の兄弟姉妹の長女でした。マリア・マザレロは若いときは丈夫な体でしたが、23歳のとき、チフスにかかっている親戚の家族の看病をした結果、自らもチフスに倒れ、重体に陥ります。やがて奇跡的に回復しますが、体力が衰え、以前のように農園で働くことができなくなりました。

何事も一生懸命するタイプのマザレロは、力仕事ができなくなっても、何か自分にできることを探しました。そこで、彼女は友人たちと共に、村の子供たちのために裁縫教室を開きます。裁縫を教えながら、教会の日曜学校でキリスト教の教えも伝えていきました。

27歳のとき、マザレロのグループは初めてドン・ボスコに会います。ドン・ボスコは彼女に新しい女子修道会をつくるように勧めました。こうして扶助者聖母会（サレジアン・シスターズ）が創立されたのです。

マリア・マザレロは44歳でなくなりましたが、彼女がドン・ボスコと共に創立したサレジアン・シスターズの活動は、今は全世界に広がっています。大阪の城星学園小学校・中学高校もサレジアン・シスターズの学校です。

私達も聖マリア・マザレロにならって、自分が置かれた状況の中でできることを探し、人の幸せに貢献できる人間になりたいものです。



聖ドメニコ・サビオ
1842-1857年



聖マリア・マザレロ
1837-1881年